



# 1 ねらい

源頼朝の死後、政子が尼将軍として幕府を指揮し、毅然とした態度で御家人たちにご恩と奉公の大切さを説き、鎌倉幕府の土台を守り抜いたことが分かるようにする。

# 2 授業の流れ

## 1 導入・視聴前のポイント (10分)

- ・鎌倉幕府の土台を築いた頼朝の亡き後、北条一族で幕府を守ってきた政子の目標は何なのか予想する。
- ★頼朝と作った鎌倉幕府の土台を守り、支えることが政子の目標であることに気付かせるようにする。

## 2 学習課題の提示

「北条政子は、どのようにして鎌倉幕府の土台を守り、支えたのだろう。」

## 3 番組視聴 ワークシート1 (20分)

- ・北条政子が御家人を説得し、朝廷に勝った「承久の乱」について、政子の呼びかけの内容や頼朝が築いた「ご恩と奉公」の制度に注目しながら、分かったことをワークシート1にメモする。  
(朝廷、ご恩と奉公、武士の地位、承久の乱)

## 4 情報整理 ワークシート2 (10分)

- ・武士の世の土台を固めた「御成敗式目」について、分かったことをワークシート2にメモする。
- ★政子の死後、三代目執権の北条泰時が定めた「御成敗式目」は、武士の裁判の基準となる法律として、長く政治の拠り所となった。
- ★「御成敗式目」により、武士の世の土台が固まった。

## 5 まとめ ワークシート3 (5分)

- ・学習課題についてのまとめをする。

# 3 評価のポイント

・「承久の乱」や「ご恩と奉公」について調べたことを基に、北条政子がどのようにして鎌倉幕府の土台を守り、支えたのか、自分の考えをワークシートにまとめている。(思考・判断・表現…主にワークシート3)

## ワークシート例



ほうじょうまさこ  
北条政子 ~ご恩と奉公を受け継ぐ~

くみ なまえ

### 学習課題

北条政子は、どのようにして鎌倉幕府の土台を守り、支えたのかを知ろう。

1 北条政子が御家人を説得し、朝廷に勝った「承久の乱」について、政子の呼びかけの内容や頼朝が築いた「ご恩と奉公」の制度に注目しながら、分かったことをメモしよう。

- ・1199年、源頼朝が53歳で亡くなった。
- ・北条政子は尼将軍となり、鎌倉幕府を守るために立ち上がった。
- ・幕府を守るべきか、朝廷に味方するべきか、動揺する御家人たちに、政子は、頼朝政権を支えた仕組みである「ご恩と奉公」の大切さを説いた。
- ・「ご恩と奉公」により、武士の地位が上がり、土地も増えたことを再認識した御家人たちは、朝廷を倒そうと再び団結した。
- ・1221年、19万の幕府軍は、京都に攻め入り、朝廷を倒した。これを「承久の乱」という。

2 武士の世の土台を固めた「御成敗式目」について、分かったことをメモしよう。

- ・政子の死後、三代目執権の北条泰時が「御成敗式目」を定め、武士の裁判の基準となる法律として、長く政治の抛り所となった。
- ・武士の社会のための法律が独自に作られたことで、幕府の支配力はより一層、強くなった。
- ・「御成敗式目」により、武士の世の土台が固まった。

3 学習課題についてまとめよう。

- ・北条政子は、毅然とした態度で、御家人たちに頼朝政権を支えた仕組みである「ご恩と奉公」の大切さを説き、鎌倉幕府の土台を守った。
- ・北条政子は、御家人を団結させ、承久の乱に勝った。
- ・政子亡き後は、三代目執権の泰時により「御成敗式目」が定められ、武士の世の土台が固まった。

